



青山剛昌/小学館・読売テレビ・TMS1996

第60期 事業報告書

平成17年4月 1 日から
平成18年3月31日まで

 株式会社 トムス・エンタテインメント

ビジネス環境の変化に柔軟に対応しつつ、 新たな成長のステップへ



代表取締役社長 古賀 督徳

●異なる2つの事業が相互補完する ビジネス構造で安定的に成長

当社では、アニメーション映画の企画・制作・配給事業とアミューズメント施設の企画・開発・運営事業を両輪に、総合エンタテインメント・カンパニーとして着実に業容を拡大してきました。

このうち、アニメーション事業については、海外

でも大人気の「ルパン三世」「名探偵コナン」「SONIC X」をはじめ7,400話数以上を保有し、コンテンツ提供やライセンス許諾のビジネスを拡大しています。一方、アミューズメント事業については家族全員で楽しめる健全なアミューズメント施設を関東、東海、近畿を中心に全国展開し、堅実な業績の伸張を遂げています。

このようにアニメーション事業とアミューズメント事業というビジネスモデルの異なる2つの事業を基軸としていることは、当社の大きな強みであり、安定した経営基盤と成長の源泉です。アミューズメント事業は堅実なキャッシュ・フローをもたらし、アニメーション事業は長期間にわたって大きな収益をもたらすという相互補完のビジネス構造になっております。

●経営資産を最大限に活用し、 収益性の高いビジネスを目指す

当社の新しい経営体制、変革は緒に就いたばかり。環境変化に即応する変革は今後も継続して推進します。次期は、こうした新しい体制の基盤を固めてその成果を見いだす最も重要な期になると考えています。

アニメーション事業においては、ワンセグやイン

ターネットテレビをはじめメディアの多様化に伴ってコンテンツビジネスの一層の前進が期待できます。また、海外における日本アニメの高評価の広がりには加速しつつあり、ライセンス販売をより強化することによりビジネスの拡大を図ります。一方で、自社制作による新タイトルの創造にもさらに注力する計画です。

アミューズメント事業については、当社独自の運営ノウハウを活かして他社店舗との差別化を図りつつ、投資効率の高い業態、出店方式を選別して、着実に全国展開を推し進めていきます。既存店舗の厳格なコスト管理や設備投資の最適化を図りつつ安定収益の確保に努めます。

●さらなる飛躍に向けて、 継続的に変革を推進

当社ビジネスを取り巻く環境は急速に変化しており、これに柔軟かつ迅速に対応して次の成長のステップを踏み出すことが求められています。

そこで当社では、今期、いくつかの大きな変革がありました。まず、平成17年10月からセガサミーホールディングス(株)の連結子会社となり、グループの傘下に加わりました。多彩なエンタテインメント事業を展開しているセガサミーグループとのさ

まざまな分野での連携により、今後、より相乗効果が期待できます。

また、中長期的な視点に立って変化に積極的に対応していく体制づくりのスタートとして、平成17年11月、経営トップの交代、組織体制の刷新を行いました。今後は新たな体制の下で、より柔軟に、より俊敏に経営判断を行って、ビジネスチャンスを広げつつ一層の成長を目指します。

さらに、平成18年3月、本社を新宿副都心に移転しました。これにより、経営管理部門とアニメーション事業営業部門、アミューズメント事業部門を集約して業務の一層の効率化とスピードアップを図ることが可能になりました。

いずれの事業においても、当社には豊富な実績に裏打ちされたノウハウとそれを支える人材があります。多くの優良なアニメコンテンツとともに、こうした経営資産を最大限に活用して次の成長段階に大きく踏み出します。また、今後はセガサミーグループとの相乗効果も目に見える形で実現できると考えています。

株主の皆様には、中長期を見据えた大きな変革とともに新たな成長のプロセスに移行しつつある現状をご理解いただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願いいたします。

総合エンタテインメント企業として世界中のあらゆる人々に夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献することを基本理念としております。

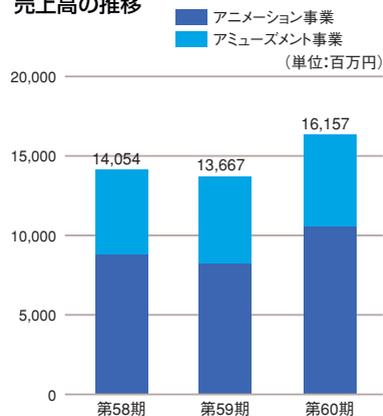
当社グループは、アニメーション映画の企画・制作・配給事業と、アミューズメント施設の企画・開発・運営事業を通じ、総合エンタテインメント企業として、業界での地位確立に向けて積極的な営業展開を実施してまいりました。

連結主要経営指標等の推移

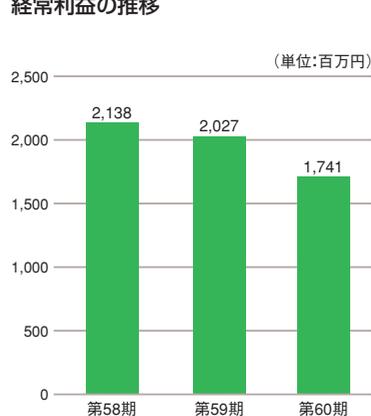
(単位：百万円)

	第58期	第59期	第60期
売上高	14,054	13,667	16,157
経常利益	2,138	2,027	1,741
当期純利益	763	1,451	1,272

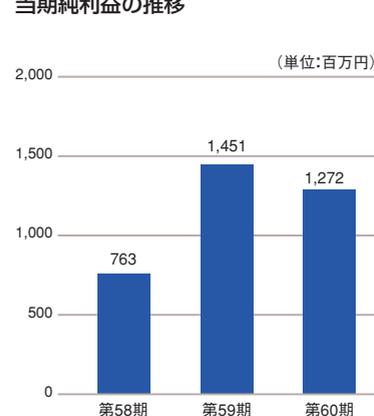
売上高の推移



経常利益の推移



当期純利益の推移



アニメーション事業におきましては、今後の収益確保に重点を定め「アニメコンテンツ」の拡大に取り組みました。さらにライセンス関連、コンテンツ関連との総合的事業展開により収益基盤の確立に努めました。

また、アミューズメント事業におきましては、当社グループの企業カラーを最大限に活用した店舗運営に努めました。

当連結会計年度の営業成績といたしましては、連結売上高は過去最高の161億5千7百万円となり、連結経常利益につきましては17億4千1百万円となりました。

また、連結当期純利益につきましては、連結子法人等「株式会社オーパス」の株式売却および海外連結子法人等で発生した過去の投資回収による特別利益計上がありましたものの、固定資産の減損損失の計上により12億7千2百万円となりました。



それいけ!
アンパンマン

やなせたかし/
フレール館・TMS・NTV

TVシリーズ 「それいけ!アンパンマン」

「それいけ!アンパンマン」は、日本テレビ系列にて1988年10月に放送を開始。今年の6月には850話の放送を迎え、本年度で19年目となり日本テレビ系列のアニメ番組では最長記録を更新中です。



名探偵コナン
水平線上の陰謀

2005青山剛昌/小学館・読売テレビ・日本テレビ・小学館プロダクション・東宝・TMS

劇場版「名探偵コナン —水平線上の陰謀 (ストラテジー)」

「名探偵コナン」の劇場版は、1997年より映画化され人気シリーズとしてゴールデンウィークの定番として9作品を数えております。また、本年4月公開の最新作「名探偵コナン—探偵たちの鎮魂歌(レクイエム)」は劇場版10周年作品となります。



AGスクエア佐賀武雄店

郊外型アミューズメント「AGスクエア佐賀武雄店」は、2005年11月に大型複合商業施設内にオープンした店舗です。九州地区では2店舗目の出店となります。

アニメーション事業

映像制作

デジタル制作システムの向上と豊富なノウハウを活かし作品の質の向上、競争力の強化を図りました。

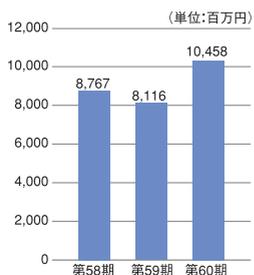
アニメーション事業におきましては、テレビシリーズ作品「それいけ! アンパンマン」「名探偵コナン」「とっとこハム太郎」のレギュラー作品に加え、「甲虫王者ムシキング～森の民の伝説～」 「雪の女王」 「エンジェル・ハート」 「格闘美神 武龍」 「ガラスの仮面」等の11作品のほか、テレビのスペシャル番組として恒例となりました「ルパン三世スペシャル」 「名探偵コナンスペシャル」 「それいけ! アンパンマンスペシャル」の3作品の合計14作品を制作しました。

劇場アニメ映画は、前期同様「名探偵コナン」「それいけ! アンパンマン」の2作品に加え新たに「甲虫王者ムシキング」 「北斗の拳 ラオウ伝」の合計4作品を制作しました。

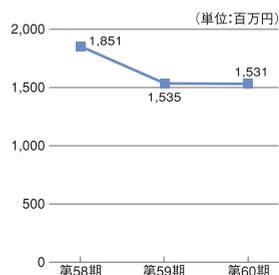
ビデオ作品に関しては、2004年より取り組んでおります「それいけ! アンパンマン」のキャラクターを活用した乳児向けオリジナル知育ビデオ「アンパンマンとはじめよう!」のシリーズ企画・制作・発売事業が、発売以来好評をいただいたことにより、第2シリーズの制作も決定いたしました。

これらによる制作収入の全体の売上高は、57億2百万円（前年同期比57.8%増）となりました。

アニメーション事業売上高の推移



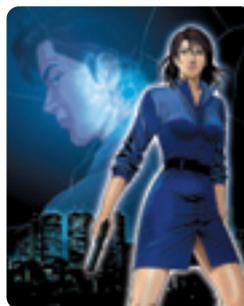
アニメーション事業営業利益の推移



河井リツ子/小学館・SMDE・
テレビ東京



NHK・NEP・TMS



北条司/YTV/TMS・ANX・YTE



ムシキングプロジェクト・テレビ東京

販売収入

ライセンス関連

ライセンス関連につきましては、国内におけるアニメーションの新作、および既存作品も含めた地上波・衛星波での放送許諾収入、ビデオ・DVD化権許諾収入、映画配給収入による配分収入および海外での放送許諾収入等が主力になっております。とくにビデオ・DVD化権許諾収入は会計サイクル年度も好調に推移しました。

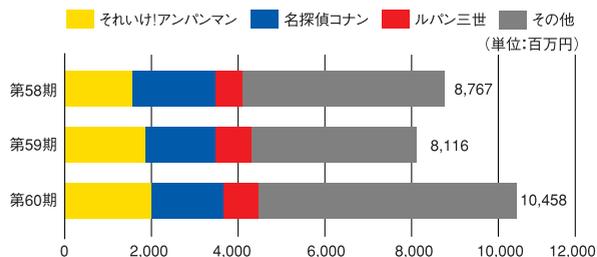
コンテンツ関連

コンテンツ関連に関しましては、保有する既存作品7,400話数の多彩なアニメコンテンツを利用した事業であり、登場キャラクターの商品化権収入、携帯電話等へのコンテンツ配信による収入が主力になっております。

保有する豊富なアニメコンテンツの有効利用によるライセンス事業を中心に推し進め、「それいけ! アンパンマン」「ルパン三世」などを中心とした商品化権収入は、好調に推移しました。また、ブロードバンドの普及と携帯電話の配信サービスの「東京ムービーONLINE」「ルパン三世 THEATER」「アニ読メ」の配信サービスもスタートしました。

これらによる販売収入全体の売上高は47億5千5百万円

作品別売上高構成比の推移



(前年同期比5.6%増)となりました。

アニメーション事業全体の売上高は104億5千8百万円(前年同期比28.8%増)となり、アニメーション事業の売上高初の100億円超を果たすことができました。



SEGA/ムシキング・ザ・ムービー・プロジェクト2005



やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV
やなせたかし/アンパンマン製作委員会2005



武論尊・原哲夫/NSP 1983
NSP 2006



アンパンマンとはじめよう!プロジェクト
やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

コンテンツビジネス

モバイル配信

「ルパン三世」携帯公式サイトは4年目となり、着信ボイスや携帯電話をつかったゲーム等ボリューム・アップを図り内容を一層充実させた結果、堅調に推移しております。2005年3月に開始した、第3世代携帯に対応した「アニ読メ」は、既存のアニメコンテンツタイトルを活用し作品数を増している他、独自のコンテンツも配信しております。この「アニ読メ」の配信技術を活用した「ルパン三世」の原作コミック版「ルパンTHE COMIC」もスタートしました。また、携帯動画配信「東京ムービー」も2006年1月にスタートしました。

ブロードバンド配信

ブロードバンドに対応したインターネット動画配信サービスとして「東京ムービーONLINE」、「ルパン三世THEATER」を2005年10月よりスタートいたしました。「東京ムービーONLINE」は名作アニメを中心に、「ルパン三世THEATER」は根強い人気の「ルパン三世」のコンテンツを配信しております。

ブロードバンドの普及に伴い市場の拡大が予想される配信事業に関しては、多様化する配信形態に対応しながら、既存のコンテンツを有効に活用するとともに事業の拡大を目指します。

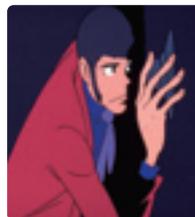
ビデオ事業

ビデオに関しては、現在ライセンス中のビジネスを充実させるとともに、TMSオリジナルレーベルで「ブザー・ビーター」を発売元事業として2005年12月にスタートさせております。

また、人気キャラクター「それいけ!アンパンマン」を活用した知育ビデオシリーズをすでに展開しておりますが、今後もこの分野でのオリジナルビデオの企画・制作・発売に取り組んでまいります。



携帯コンテンツ
「アニ読メ」
©梶原一騎・川崎のぼる/講談社・TMS



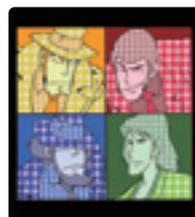
ルパン三世THEATER

ブロードバンドコンテンツ
「ルパン三世 THEATER」
©モンキー・パンチ/TMS・NTV



BUZZER BEATER

「BUZZER BEATER」
©I.T.Planning/TMS
発売日 2005/12/7



ルパン三世
公式携帯サイト

©モンキー・パンチ/TMS・NTV



東京ムービー
ONLINE

ブロードバンドコンテンツ
「東京ムービーONLINE」
©高森朝雄・ちばてつや/講談社・TMS



ガンバ
の冒険

「ガンバの冒険」
©斎藤惇夫/岩波書店・TMS
発売日 DVD BOX 2006/4/28

海外展開

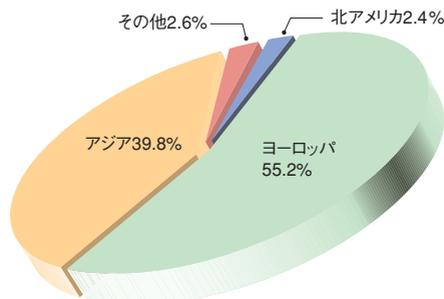
ワールドワイドな販売戦略を構築し、さらなる発展を目指す。

海外におきましては、CATV・衛星放送をはじめとして多チャンネル放送化が進み、市場での日本のアニメーションの需要の高まりがある反面、国内外のアニメコンテンツ制作会社の競争が激しくなっております。このような状況の中でも、当社グループが有する優良なアニメコンテンツを欧州市場、アジア市場および北米市場に提供しております。

すでに評価の高いテレビシリーズ「ルパン三世」、「とっとこハム太郎」、株式会社セガのコーポレート・キャラクターを用いたテレビシリーズ「ソニック X」が引き続き全世界60ヶ国以上で放送されております。また、株式会社セガのアーケード・ゲーム「甲虫王者ムシキング」のオリジナルアニメーション「甲虫王者ムシキング～森の民の伝説～」の放送を2006年4月よりアジア各国にて開始し、2007年には欧米各地域でも放送を予定しております。

作品放送開始から配給に携わっている「名探偵コナン」は、欧米、アジアをはじめ世界各国で高い収益を上げております。

第60期 地域別売上高構成比（合計1,170百万円）



LUPIN THE 3rd

モンキー・パンチ/TMS・NTV



HAMTARO
with ham太郎 big adventures

河井リツコ/小学館・SMDE・テレビ東京



Detective
CONAN

青山剛昌/小学館・読売テレビ・TMS1996



In General
MUSHIKING

ムシキングプロジェクト・テレビ東京

アミューズメント事業

アミューズメント事業におきましては、当社グループの運営するアミューズメント施設は、基本とする店舗運営コンセプト中で各店舗独自のカラーをフルに発揮し店舗におけるマイクパフォーマンス、イベント等を取り入れ「楽しく、安心して遊べる場所」の提供など、他社店舗との差別化を目指した付加価値の高い店舗運営を行っております。

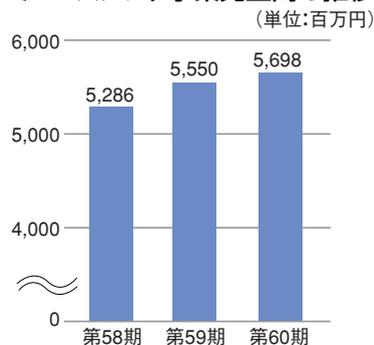
また、各店舗とも地域密着型の店舗運営を心がけた営業展開を行っております。

新規施設開発では、当連結会計年度におきまして3店舗の新規出店を実施し、このうちの2店舗は当社初の九州地区への出店を果たすことができました。これによりまして2006年3月期末のアミューズメント施設店舗数は23店舗となっております。

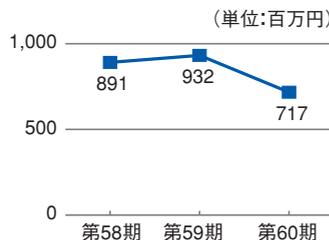
施設運営収入につきましては、既存店舗では前年同期と比べ5%程度の減収となりましたが、前年下期の新規出店店舗がフルに寄与したことおよび当連結会計年度の新規出店による効果により、アミューズメント施設売上高は、56億4千1百万円と前年同期比2.8%の増収となりました。

アミューズメント事業全体の売上高は、その他の付帯収入を含めまして56億9千8百万円となりました。

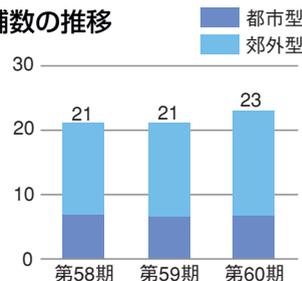
アミューズメント事業売上高の推移



アミューズメント事業営業利益の推移



店舗数の推移



都市型店舗

仕事帰りの気分転換やデートに最適、
利便性が大きな魅力

いつでもどなたでも気軽に立ち寄りやすいよ
うに駅に近い利便性の高い場所に立地していま
す。



郊外型店舗

ファミリーでも安心してご来店
いただけるように、駐車場も完備

ファミリーやカップルが車で来店しやすいよ
う駐車場を完備しています。また飲食店、物販
店との複合施設となっており、当店の他にもシ
ョッピングやお食事など施設全体を楽しんでい
ただいています。

今後の出店計画

今後の出店計画に関しましては、第61期中には4店舗を計画しており、2006年4月に「AGスクエア水戸店」(茨城県)、5月に「AGスクエア庄内店」(山形県)を新規出店いたしました。今後も毎年全国各地の主要地域への出店を計画しております。

セグメント別営業の概況

全国にアミューズメント店舗を展開中!



●は都市型店、●は郊外型、●は2006年新規オープン店舗です。



① AGスクエア札幌店

札幌市中央区

② AGスクエア松戸店

千葉県松戸市

③ AGスクエア赤羽店

東京都北区

④ AGスクエア栄店

名古屋市中区

⑤ AGスクエア徳島店

徳島県徳島市

⑥ AGスクエア小倉店

北九州市小倉北区

⑦ AGスクエアつくば店

茨城県つくば市

⑧ AGスクエア埼玉花園店

埼玉県深谷市

⑨ AGスクエア千葉鎌取店

千葉市緑区

⑩ AGスクエア習志野店

千葉県習志野市

⑪ AGスクエア多摩境店

東京都町田市

⑫ AGスクエア松本店

長野県松本市

⑬ AGスクエア岡谷店

長野県岡谷市

⑭ AGスクエア掛川店

静岡県掛川市

⑮ AGスクエア袋井店

静岡県袋井市

⑯ AGスクエア磐田店

静岡県磐田市

⑰ AGスクエア豊川店

愛知県豊川市

⑱ AGスクエア刈谷店

愛知県刈谷市

⑲ AGスクエア大垣店

岐阜県大垣市

⑳ AGスクエア四日市店

三重県三重郡

㉑ AGスクエア岸和田店

大阪府岸和田市

㉒ AGスクエア小郡店

山口県山口市

㉓ AGスクエア佐賀武雄店

佐賀県武雄市

㉔ AGスクエア水戸店

茨城県水戸市

(都市型店2006年4月オープン)

㉕ AGスクエア庄内店

山形県東田川郡

(郊外型店2006年5月オープン)



●連結貸借対照表

【単位：千円】

科 目	当連結会計年度 平成18年3月31日現在	前連結会計年度 平成17年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	11,809,112	10,745,549
現金及び預金	7,551,341	7,343,366
受取手形及び売掛金	1,149,819	1,088,128
有価証券	999,206	—
たな卸資産	1,545,058	1,894,384
繰延税金資産	57,300	98,807
前払費用	82,024	85,272
短期貸付金	495	60,476
その他の流動資産	427,494	179,247
貸倒引当金	△ 3,628	△ 4,134
固定資産	5,063,069	5,582,900
有形固定資産	2,823,800	3,085,455
建物及び構築物	1,356,898	1,548,289
機械装置及び運搬具	14,754	15,835
工具器具備品	422,594	486,573
土地	1,028,975	1,034,756
建設仮勘定	577	—
無形固定資産	172,021	144,438
投資その他の資産	2,067,247	2,353,006
投資有価証券	297,170	359,410
長期貸付金	2,395	2,853
長期前払費用	100,537	117,391
繰延税金資産	35,522	148,291
差入保証金	1,581,805	1,667,344
破産債権等	578,389	931,496
その他の投資	42,937	46,486
貸倒引当金	△ 571,510	△ 920,267
資 産 合 計	16,872,182	16,328,449

【単位：千円】

科 目	当連結会計年度 平成18年3月31日現在	前連結会計年度 平成17年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	2,586,771	2,569,826
支払手形及び買掛金	1,747,390	1,625,276
短期借入金	97,672	373,064
未払法人税等	101,997	149,890
未払消費税等	76,011	27,954
未払費用	54,360	60,832
賞与引当金	79,147	99,842
設備等支払手形	61,520	26,770
その他の流動負債	368,672	206,196
固定負債	519,856	722,391
長期借入金	21,800	179,699
退職給付引当金	316,956	317,245
役員退職慰労引当金	138,600	180,446
その他の固定負債	42,500	45,000
負 債 合 計	3,106,627	3,292,217
(少数株主持分)		
少数株主持分	—	—
(資本の部)		
資本金	8,816,866	8,816,866
資本剰余金	1,806,323	1,806,343
利益剰余金	4,115,935	3,223,640
その他有価証券評価差額金	35,998	74,237
為替換算調整勘定	△ 121,666	△ 108,359
自己株式	△ 887,902	△ 776,496
資 本 合 計	13,765,555	13,036,232
負債、少数株主持分 及び資本合計	16,872,182	16,328,449

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●連結損益計算書

【単位：千円】

科 目	当連結会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前連結会計年度 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	16,157,334	13,667,276
営業費用		
売上原価	12,666,304	9,722,129
販売費及び一般管理費	1,801,124	1,938,594
営業利益	1,689,906	2,006,552
営業外損益の部		
営業外収益	80,728	63,167
受取利息及び配当金	4,172	6,217
その他	76,556	56,950
営業外費用	29,352	42,154
支払利息	6,271	9,845
その他	23,080	32,308
経常利益	1,741,282	2,027,566
(特別損益の部)		
特別利益	417,494	22,656
固定資産売却益	1,372	1,074
投資有価証券売却益	117,848	—
連結子会社株式売却益	194,687	—
貸倒引当金戻入益	1,972	5,377
過年度消費税等還付金	—	16,203
投資回収益	101,613	—
特別損失	489,518	226,494
固定資産除却損	17,027	21,061
固定資産売却損	5,767	383
減損損失	452,483	—
投資有価証券売却損	—	312
会員権評価損	2,750	—
退職給付費用	—	22,268
建物賃貸借契約解除に伴う損失	11,489	48,895
新紙幣発行に伴う両替機改造費	—	23,319
制作中止に伴う損失	—	110,255
税金等調整前当期純利益	1,669,258	1,823,727
法人税、住民税及び事業税	235,168	231,635
過年度法人税等	—	26,533
法人税等調整額	161,301	113,634
当期純利益	1,272,788	1,451,924

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●連結剰余金計算書

【単位：千円】

科 目	当連結会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前連結会計年度 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	1,806,343	1,806,323
資本剰余金増加高	—	20
自己株式処分差益	—	20
資本剰余金減少高	20	—
自己株式処分差損	20	—
資本剰余金期末残高	1,806,323	1,806,343
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	3,223,640	2,130,617
利益剰余金増加高	1,272,788	1,451,924
当期純利益	1,272,788	1,451,924
利益剰余金減少高	380,493	358,901
配当金	319,497	321,514
役員賞与金	36,140	37,387
(うち監査役賞与金)	(3,000)	(3,700)
自己株式処分差損	24,855	—
利益剰余金期末残高	4,115,935	3,223,640

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●連結キャッシュ・フロー計算書

【単位：千円】

科 目	当連結会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	前連結会計年度 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,466,771	821,643
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,577,348	△ 611,765
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 679,631	△ 685,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 11,817	3,170
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	197,974	△ 472,351
現金及び現金同等物の期首残高	7,052,366	7,524,718
現金及び現金同等物の期末残高	7,250,341	7,052,366

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

個別財務諸表

●個別貸借対照表

【単位：千円】

科 目	当 期	前 期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	11,539,708	10,242,135
現金及び預金	7,287,583	6,938,724
売掛金	1,141,563	1,081,361
有価証券	999,206	—
製品	1,083,073	1,052,030
仕掛品	411,222	752,076
貯蔵品	39,235	34,301
前渡金	13,142	30,036
前払費用	81,771	74,000
繰延税金資産	71,711	88,325
短期貸付金	495	60,476
未収入金	351,566	79,045
その他の流動資産	62,714	55,665
貸倒引当金	△ 3,579	△ 3,909
固定資産	5,521,226	6,725,065
有形固定資産	2,809,172	2,933,374
建物	1,341,052	1,450,789
構築物	9,318	9,130
機械装置	1,843	1,843
車両運搬具	12,129	12,584
工具器具備品	415,276	424,270
土地	1,028,975	1,034,756
建設仮勘定	577	—
無形固定資産	169,873	136,505
借地権	92,571	92,571
ソフトウェア	67,886	34,517
電話加入権	9,416	9,416
投資その他の資産	2,542,179	3,655,185
投資有価証券	255,840	298,520
関係会社株式	235,100	1,519,660
出資金	5,202	202
長期貸付金	2,395	2,853
破産債権等	715,333	1,068,439
長期前払費用	100,537	116,049
繰延税金資産	316,684	425,078
差入保証金	1,581,805	1,241,303
会員権	37,735	40,288
貸倒引当金	△ 708,454	△ 1,057,211
資 産 合 計	17,060,934	16,967,201

【単位：千円】

科 目	当 期	前 期
	平成18年3月31日現在	平成17年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	2,652,525	2,317,313
支払手形	128,190	138,032
買掛金	1,776,140	1,482,671
短期借入金	68,000	221,025
未払金	197,090	114,154
未払法人税等	95,642	140,625
未払消費税等	67,286	18,484
未払費用	49,327	44,887
前受金	113,925	22,526
預り金	13,086	14,922
賞与引当金	68,166	77,432
設備等支払手形	61,520	26,770
その他の流動負債	14,150	15,780
固定負債	413,513	442,995
長期借入金	21,800	25,000
退職給付引当金	243,736	229,299
役員退職慰労引当金	105,477	146,195
預り保証金	42,500	42,500
負 債 合 計	3,066,039	2,760,308
(資本の部)		
資本金	8,816,866	8,816,866
資本剰余金	1,806,323	1,806,343
資本準備金	1,806,323	1,806,323
その他資本剰余金	—	20
自己株式処分差益	—	20
利益剰余金	4,223,609	4,285,941
利益準備金	397,893	397,893
任意積立金	3,100,000	2,400,000
別途積立金	3,100,000	2,400,000
当期末処分利益	725,715	1,488,047
その他有価証券評価差額金	35,998	74,237
自己株式	△ 887,902	△ 776,496
資 本 合 計	13,994,895	14,206,892
負 債 資 本 合 計	17,060,934	16,967,201

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●個別損益計算書

【単位：千円】

科 目	当 期	前 期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益		
売上高	14,471,252	12,002,845
営業費用		
売上原価	11,288,651	8,378,170
販売費及び一般管理費	1,669,601	1,792,634
営業利益	1,512,998	1,832,041
営業外損益の部		
営業外収益	104,675	102,911
受取利息及び配当金	4,154	14,200
その他の営業外収益	100,520	88,711
営業外費用	24,936	29,737
支払利息	2,543	5,718
その他の営業外費用	22,392	24,018
経常利益	1,592,738	1,905,215
(特別損益の部)		
特別利益	120,840	76,126
固定資産売却益	1,195	1,074
投資有価証券売却益	97,400	—
関係会社株式売却益	20,448	—
貸倒引当金戻入益	1,796	58,848
過年度消費税等還付金	—	16,203
特別損失	1,055,393	101,363
固定資産除却損	15,323	21,061
固定資産売却損	12	258
減損損失	450,817	—
投資有価証券売却損	—	312
関係会社株式売却損	575,000	—
会員権評価損	2,750	—
退職給付費用	—	13,866
建物賃貸借契約解除に伴う損失	11,489	48,895
新紙幣発行に伴う両替機改造費	—	16,969
税引前当期純利益	658,185	1,879,979
法人税、住民税及び事業税	191,797	202,858
過年度法人税等	—	25,297
法人税等調整額	151,036	537,140
当期純利益	315,351	1,114,682
前期繰越利益	435,220	373,364
自己株式処分差損	24,855	—
当期末処分利益	725,715	1,488,047

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●利益処分

【単位：千円】

科 目	当 期	前 期
当期末処分利益	725,715	1,488,047
利益処分額	349,132	1,052,827
利益配当金	319,132	319,497
役員賞与金	30,000	33,330
(うち監査役賞与金)	(2,100)	(3,000)
任意積立金	—	—
別途積立金	—	700,000
次期繰越利益	376,582	435,220

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。

●1株当たり配当金

	当 期			前 期		
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで			平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで		
	年間	中間	期末	年間	中間	期末
普通株式	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
	7 50	—	7 50	7 50	—	7 50

(注)中間配当制度はありません。

会社概要

商 号: 株式会社 **トムス・エンタテインメント**

設 立: 昭和21年10月

資 本 金: 88億1,686万円
(名古屋証券取引所市場第二部上場)

従業員数: 212名

事業内容: [アニメーション事業]
アニメーション作品の企画・制作・販売・
配給および輸出
[アミューズメント事業]
アミューズメント施設の企画・開発・運営

事業所:

本 店

〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目2番29号

TEL:052-243-9811 FAX:052-243-9814

東京本社

(管理本部、東京ムービー事業本部、アミューズメント施設事業本部)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号

TEL:03-5325-9111 FAX:03-5325-1511

東京ムービー事業本部制作スタジオ

〒164-0002 東京都中野区上高田五丁目39番1号

TEL:03-3319-1131 FAX:03-3319-1140

主な子会社: 株式会社テレコム・アニメーションフィルム

株式会社トムス・フォト

株式会社トムス・ミュージック

TMS ENTERTAINMENT,USA,INC.

※平成18年7月1日から本店を上記の現東京本社に変更し、
従来の本店(名古屋市)は、名古屋事務所とします。

取締役および監査役

取締役会長	里見 治
取締役社長 (代表取締役)	古賀 督徳
常務取締役 (代表取締役)	松元 理人
常務取締役	吉田 諭司
取 締 役	山田 克博
取 締 役	吉田 力雄
取 締 役	岡村 秀樹
取 締 役	田畑 俊哉
取 締 役	加藤 俊三
常勤監査役	升森 長
監 査 役	宇佐美基彦
監 査 役	平川 壽男
監 査 役	田中 克郎

株式の状況

会社が発行する株式の総数 121,000,000株
 発行済株式総数 44,153,101株
 株主数 3,713名(前期末比1,372名減)

大株主の状況

株 主 名	持株数 千株	議決権比率 %
セガサミーホールディングス(株)	16,410	38.69
セガサミーインベストメント(株)	6,109	14.40
日本テレビ放送網(株)	2,000	4.72
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,305	3.08
中部証券金融(株)	1,180	2.78
日興コーディアル証券(株)	818	1.93
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	577	1.36
小窪 章	345	0.81
資産管理サービス信託銀行(株)(年金特金口)	344	0.81
モルガンスタンレーアンドカンパニー インターナショナル リミテッド	339	0.80

(注)当社は、自己株式1,602,046株を保有しておりますが、上記の大株主からは除いております。

株主分布状況

所有者別株主数

区分	株主数(名)	割合(%)
金融機関	10	0.28
証券会社	17	0.46
その他法人	62	1.67
外国法人等	20	0.54
個人その他	3,603	97.02
自己名義株式	1	0.03
合計	3,713	100.00

地域別株主数

区分	株主数(名)	割合(%)
北海道	41	1.10
東北地方	42	1.13
関東地方	1,194	32.17
中部地方	1,334	35.93
近畿地方	718	19.33
中国地方	160	4.31
四国地方	84	2.26
九州地方	122	3.29
外国	18	0.48
合計	3,713	100.00

株主メモ

上場証券取引所 名古屋証券取引所市場第二部
事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
公告方法 電子公告にて当社のホームページ
 (<http://www.tms-e.co.jp/>)に掲載いた
 します。ただし、やむを得ない事由によって
 電子公告による公告をすることができない
 場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式の名義書換 株主名簿管理人

〒103-8202
 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号
 日本証券代行株式会社
 (住所変更等用紙のご請求) 0120-707-842
 (その他のご照会) 0120-707-843
 URL <http://www.jsa-hp.co.jp/>

同事務取扱場所

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目3番17号
 日本証券代行株式会社 名古屋支店
 TEL. 052-261-1781

同取次所

日本証券代行株式会社 本・支店

株主優待のご案内



当社オリジナルアニメキャラクターQUO カード

3月末日現在の株主様 (1,000株以上)

1,000株以上保有の株主様 1,000円分を進呈

5,000株以上保有の株主様 2,000円分を進呈

10,000株以上保有の株主様 3,000円分を進呈



当社オリジナル

アニメキャラクター日めくりカレンダー

9月末日現在の株主様 (1,000株以上)に進呈



ホームページアドレス: <http://www.tms-e.co.jp/>

〒160-0023 東京都新宿区西新宿三丁目2番4号

TEL:03-5325-9111 (代表)



この報告書は、環境負荷低減のため「古紙100%再生紙」
「100%植物油インキ」を使用しています。